

# 日本型ファシリテーション技法の研究

## A study of Japanese model FACILITATION technique

小泉 泰通  
Yasumichi Koizumi

### 1. はじめに

農業インフラ造りに住民参加(Public Involvement)による方法が導入されて数年たち、合意形成のために多様な手法が取り入れられているが、まだ有効な手法が確立されたとは言えない。住民参加(P I)の思想はアメリカから導入されたものであり、まだ先方から学ぶべき点がある。連邦道路庁(FHWA)で成果をあげている「ファシリテーション(Facilitation)」の考え方をもとに、我が国の社会・経済的条件に合わせ日本的に組み立てたジョブ・プランの開発について述べる。

### 2. 我が国の住民参加(Public Involvement)の課題

住民参加とは地域住民の関与により、住民のニーズを行政に生かし望む方向のインフラ整備をしようとするもので、その狙いは賛同を得られるものの、円滑に初期の成果をあげた例は多くない。

その理由として、原案作成者が原案に拘る、協議メンバーが恣意的に選定される、情報が公開されていない、アンケート等が原案追認誘導型である、話し合いや交渉をする場が少ない、責任の所在が曖昧である、意思決定プロセスが明示されていない、協議の結論が不明確である、決定事項が計画に反映されたか分からない、少数意見が軽視されるなどがあげられる。

我が国の農業・農村環境には、農地が狭く入り組んでいる、混住社会である、新旧住民の融和が乏しい、地縁・血縁・家柄などを偏重する古い風土がある、生活者の年齢・所得・職業・宗教が異なるなどの問題があり、住民参加による合意形成が機能しにくい。

### 3. VE 的思考による活性化策

住民参加により合意形成を進めるためには、住民との信頼関係の構築が基本的要件であり、次の 6 点を満たさなければならない。住民の意向を優先する、目的物の役割を果たす、参加者の参加意欲を高揚する、創造的な合意形成の場を作る、より良いモノを追求する。

また円滑に進めるために次の手順が必要である。意思決定のプロセスを予め明示する、必要な情報を公開する、目的物の役割を明確にする、真に必要な働きを明確にする、目的物のコストを明らかにする、働きとコストから価値を評価する、価値を高める部分を選ぶ、改善のアイデアを出す、アイデアを選ぶ、改善案を高める、技術面・経済面の実現性を確認する、実施計画を立てる。

米国連邦道路庁では事業推進にあたり上記の趣旨を貫いている。また、参加者の合意を得るため、公平性を保つ、事実を示し参加者の判断に供する、中立で私見を述べない、寛いだ雰囲気を作る、前向きな提案を歓迎する、合意に向け参加者の質問を誘い出す、ブレインストーミングを活用するなど強調している。

### 4. 日本型ファシリテーションのジョブ・プラン

次の表に日本型ファシリテーションのジョブ・プランを示す。この方法は欧米の民主主義と合理性から生まれた VE 思考を日本人の感覚に合わせて組み立てたもので、参加者の思考の体系化、全員による評価、全員の価値観の共有化など参加者の合意形成を円滑に進めることができる。

参考文献 1)小泉泰通:土木学会第 58 回年次大会資料(第 4 部門 NO237)、2)米国連邦道路庁 HP

(株)日本水工コンサルタント、NIHON SUIKOU CONSULTANT、住民参加、合意形成、VE、農業インフラ

日本型ファシリテーションの「ジョブ・プラン」

st	ステップ名称/内容の例	次ステップへのゲート
0	準備 ワークショップの目的、時間配分、進め方を説明する	
1	原案(原計画)の説明 平面図、断面図、パース、CG、ビデオ、パワーポイント、写真で分かり易く	参加者の理解を得る
2	要望点・不安点の明確化 「いつ、どこ、だれ、なぜ、なに」を明確に聞き出す 【いつ】着手前、工事中、完成直後、供用中、時刻、昼、夜、季節、耕作期 【どこ】川辺、通学路、住宅地、学校、集会場、畑地、田圃、農道、用排水路 【だれ】子供、大人、女性、男性、障害者、高齢者、(擬人化して)作物、家畜 【なぜ】安全、健康、快適、便利、楽しみ、収入、売価、作業量、レベル維持 【なに】音、光、景観、眺望、収量、品質、価格、収穫期、肥育期間、植生	予めカードを配る 記入欄をできるだけ埋める (注)具体策は不要
3	要望点・不安点の体系化 場所、時間、要素等から体系的に整理する 達成度、評価基準、許容度の決め方を確認する	2の要望点・不安点を網羅
4	原案の分析 原案と要望点・不安点のギャップを分析する 出現率、ギャップの大きさの程度、対応策の費用、織り込まなかった理由	要望点・不安点との違いを明確にする
5	原案の評価 原案と要望点・不安点のギャップから原案を評価する 相乗、重複、背反、包含、相関(正負・強さ)などを確認する	相互の関係を明確にする
6	取り組み順位の決定 明らかになった要望点・不安点を絞り、下記の方法で取り組み順位を決める *FDforC(Function Deployment for Claim:要求機能展開法) *FD法(Forced Decision:強制決定法) *DARE法(Decision Alternative Ratio Evaluation System:交互比率評価法) *AHP法(Analytic Hierarchy Process:階層分析法)他	全ての順位をつける (注)少数意見に耳を傾ける (注)許容度、ギャップを考慮
7	改善案のアイデア発想 取り組み順位上位の要望点・不安点について、下記の方法で改善アイデアを出す *自由連想法(ブレインストーミング法、カードBS法、ブレインライティング法) *強制連想法(チェックリスト法、マトリックス法、希望点列挙法・欠点列挙法) *類比連想法(シネクティクス、NM法) *空間型法(KJ法、クロス法) *系列型法(PERT法、特性要因法)	要望点・不安点を具体的提案に変換する アイデアを出し尽くす
8	改善アイデアの選択 取り組んだ要望点・不安点の改善アイデアをグルーピングして絞る 技術性・経済性から粗フルイする	全てをグループに分ける
9	改善アイデアの高度化 選ばれたアイデアの利点・欠点を調べ、欠点を克服するアイデアを出す 技術性・経済性を評価して、希望点を満たすか検証する	実施レベルへ引き上げる
10	総合改善案の取り纏め 体系別改善案の整合性を確認する	

